

【表紙】

【提出書類】 有価証券届出書の訂正届出書

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年9月21日

【発行者名】 SBIアセットマネジメント株式会社

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 梅本 賢一

【本店の所在の場所】 東京都港区六本木一丁目6番1号

【事務連絡者氏名】 中村 慎吾

【電話番号】 03-6229-0170

【届出の対象とした募集内国投資信託受益証券に係るファンドの名称】 SBI小型成長株ファンド ジェイクール
(愛称:jcool)

【届出の対象とした募集内国投資信託受益証券の金額】 継続募集額 500億円を上限とします。

【縦覧に供する場所】 該当事項はありません。

1【有価証券届出書の訂正届出書の提出理由】

半期報告書を提出したことに伴い、平成30年3月22日付をもって提出した有価証券届出書（平成30年4月6日付で提出した有価証券届出書の訂正届出書にて訂正済み。以下「原届出書」という。）の一部に訂正すべき事項がありますので、これを訂正するため本訂正届出書を提出するものです。

2【訂正箇所及び訂正事項】

下線部_____が訂正箇所です。

原届出書の下記事項については、それぞれ下記の内容に原届出書が訂正されます。

第二部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

(1)【ファンドの目的及び基本的性格】

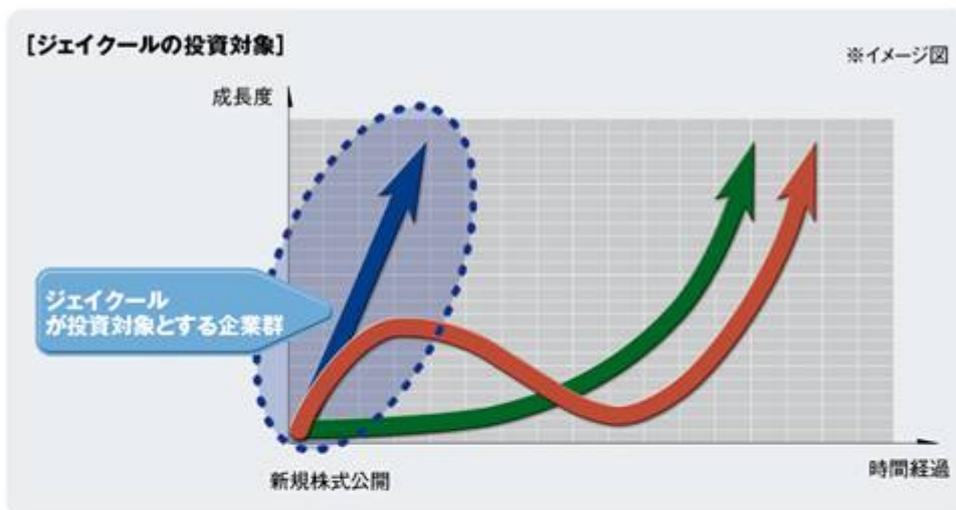
以下の記載内容に訂正・更新します。

(略)

ファンドの特色

- マザーファンド受益証券への投資を通じて新規公開という、いわば「第2の創業期」を成長の契機として、新たに成長を加速する、企業家精神に溢れた「次代を拓く革新高成長企業」に厳選投資します。原則として公開後3年以内の企業を投資対象とします。

本ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。詳しくは後記の「ファンドの仕組み」をご参照ください。



注)企業の成長過程をイメージしたものであり、将来の運用成果を保障するものではありません。

- エンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社より投資に関する助言を受けて運用します。

<p style="text-align: center;">企業家精神を応援 次代を拓く革新高成長企業へ投資します。</p>	<p style="text-align: center;">投資顧問会社:エンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社 (代表取締役 宇佐美 博高氏)が投資助言します。</p>
<p>中小型成長株運用に 特化した、独立系の 投資顧問会社です。</p>	<p>宇佐美 博高氏の略歴 一橋大学卒。静岡銀行、すみや電器を経て野村総合研究所入社。 ディービー モルガン グレンフェル アセット マネジメント (現Dイチェ・アセット・マネジメント)等株式運用責任者を歴任後、平成14年エンジェルジャパン・アセットマネジメントを設立。 助言資産3,079億円(2018年7月末現在)。</p>

資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができないことがあります。

(3)【ファンドの仕組み】

<訂正前>

ファンドの仕組み

- ・本ファンドの運用は、ファミリーファンド方式で行います。

ファミリーファンド方式とは、投資者の皆様からお預かりした資金をまとめてベビーファンド（本ファンド）とし、その資金を主としてマザーファンド受益証券に投資して、実質的な運用をマザーファンドで行う仕組みです。

（略）

委託会社の概況(平成30年1月末日現在)

（略）

<訂正後>

ファンドの仕組み

- ・本ファンドの運用は、ファミリーファンド方式で行います。

ファミリーファンド方式とは、投資信託（ベビーファンド）の資金をまとめてマザーファンドと呼ばれる投資信託に投資し、実質的な運用をマザーファンドで行う仕組みです。

（略）

委託会社の概況(平成30年7月末日現在)

（略）

2【投資方針】

(1)【投資方針】

<訂正前>

(略)

エンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社の概況

代表者	代表取締役 宇佐美 博高
設立	平成13年12月4日 関東財務局長（金商）第641号
助言資産	2,693億円（平成30年1月末現在）
経営理念	「企業家精神を応援し続け、経済社会の活性化に貢献する」明快な理念の元、革新的な成長企業などへの投資に対する助言
特徴	革新的な成長企業（新規株式公開企業等を含む）を中心とした調査・分析・投資助言に特化 徹底した個別直接面談調査に基づく厳選投資 投資リスク軽減のため、投資後も定期的な企業訪問を行い、充実した調査・分析を継続

(略)

<訂正後>

(略)

エンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社の概況

代表者	代表取締役 宇佐美 博高
設立	平成13年12月4日 関東財務局長（金商）第641号
助言資産	3,079億円（平成30年7月末現在）
経営理念	「企業家精神を応援し続け、経済社会の活性化に貢献する」明快な理念の元、革新的な成長企業などへの投資に対する助言
特徴	革新的な成長企業（新規株式公開企業等を含む）を中心とした調査・分析・投資助言に特化 徹底した個別直接面談調査に基づく厳選投資 投資リスク軽減のため、投資後も定期的な企業訪問を行い、充実した調査・分析を継続

(略)

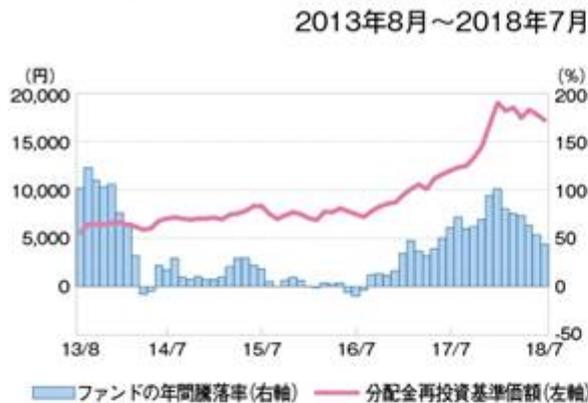
3【投資リスク】

以下の記載内容に訂正・更新します。

(略)

参考情報

ファンドの年間騰落率及び分配金再投資基準価額の推移



ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較



- * 上記の分配金再投資基準価額及び年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額及び実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。
- * 「ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較」は、上期期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、ファンド及び他の代表的な資産クラスについて表示し、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。
- * 代表的な資産クラスの騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

〈代表的な資産クラスの指数〉

日本株……………東証株価指数(TOPIX)(配当込み)
 先進国株……………MSCI KOKUSAI インデックス(配当込み、円ベース)
 新興国株……………MSCI エマージングマーケットインデックス(配当込み、円ベース)
 日本国債……………NOMURA-BPI国債
 先進国債……………FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)
 新興国債……………JPモルガンガバメントボンドインデックス-エマージングマーケットグローバルディバースファイド(円ベース)
 (注)海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

〈著作権等について〉

○東証株価指数(TOPIX)(配当込み)は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

○MSCI KOKUSAI インデックス(配当込み、円ベース)は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Index に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○MSCI エマージングマーケットインデックス(配当込み、円ベース)は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Index に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA-BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

○FTSE世界国債インデックス(除く日本、円換算ベース)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産権その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

○JPモルガンガバメントボンドインデックス-エマージングマーケットグローバルディバースファイド(円ベース)は、J.P.Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガンガバメントボンドインデックス-エマージングマーケットグローバルディバースファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P.Morgan Securities LLCに帰属します。

4【手数料等及び税金】

(5)【課税上の取扱い】

<訂正前>

収益分配時・換金（解約）・償還時に受益者が負担する税金は平成30年1月末日現在、以下の通りです。なお、以下の内容は税法が改正された場合等には、変更となる場合があります。

(略)

<訂正後>

収益分配時・換金（解約）・償還時に受益者が負担する税金は平成30年7月末日現在、以下の通りです。なお、以下の内容は税法が改正された場合等には、変更となる場合があります。

(略)

5【運用状況】

以下の記載内容に訂正・更新します。

(1)【投資状況】

(平成30年 7月31日現在)

資産の種類	国名	時価合計 (円)	投資比率 (%)
親投資信託受益証券	日本	21,674,275,249	99.80
現金・預金・その他の資産(負債控除後)	-	43,752,460	0.20
合計(純資産総額)		21,718,027,709	100.00

(注)投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

(2)【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

(平成30年 7月31日現在)

国/ 地域	種類	銘柄名	数量	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
日本	親投資信託受 益証券	小型成長株・マザーファンド	10,205,902,552	2.1534	21,977,390,556	2.1237	21,674,275,249	99.80

(注)投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

種類別投資比率

(平成30年 7月31日現在)

種類	投資比率(%)
親投資信託受益証券	99.80
合計	99.80

(注)投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

（３）【運用実績】

【純資産の推移】

平成30年 7月31日（直近日）現在、同日前1年以内における各月末ならびに下記計算期間末の純資産の推移は次の通りです。

年 月 日	純資産総額 （円）		1口当たり純資産額 （円）	
	（分配落）	（分配付）	（分配落）	（分配付）
第3計算期間末（平成20年12月22日）	5,699,573,769	5,699,573,769	2,154	2,154
第4計算期間末（平成21年12月22日）	6,251,359,961	6,251,359,961	2,543	2,543
第5計算期間末（平成22年12月22日）	5,377,546,467	5,377,546,467	2,563	2,563
第6計算期間末（平成23年12月22日）	4,598,700,077	4,598,700,077	2,575	2,575
第7計算期間末（平成24年12月25日）	4,216,985,629	4,216,985,629	3,146	3,146
第8計算期間末（平成25年12月24日）	7,488,262,662	7,488,262,662	6,110	6,110
第9計算期間末（平成26年12月22日）	5,997,780,925	5,997,780,925	6,847	6,847
第10計算期間末（平成27年12月22日）	4,953,631,862	4,953,631,862	7,264	7,264
第11計算期間末（平成28年12月22日）	4,563,819,889	4,563,819,889	8,390	8,390
第12計算期間末（平成29年12月22日）	10,408,860,030	10,408,860,030	15,889	15,889
平成29年 7月末日	5,655,543,615	-	11,988	-
8月末日	5,614,354,303	-	12,327	-
9月末日	5,525,734,544	-	12,469	-
10月末日	5,852,147,079	-	13,362	-
11月末日	6,806,439,333	-	14,494	-
12月末日	14,106,488,198	-	16,827	-
平成30年 1月末日	38,365,136,035	-	19,023	-
2月末日	25,566,063,722	-	18,190	-
3月末日	28,903,797,316	-	18,515	-
4月末日	27,259,877,454	-	17,450	-
5月末日	26,903,044,244	-	18,300	-
6月末日	24,070,344,783	-	17,787	-
7月末日	21,718,027,709	-	17,197	-

(注)表中の末日とはその月の最終営業日を指します。

【分配の推移】

期	計算期間	1口当たりの分配金（円）
第3計算期間	平成19年12月26日～平成20年12月22日	0
第4計算期間	平成20年12月23日～平成21年12月22日	0
第5計算期間	平成21年12月23日～平成22年12月22日	0
第6計算期間	平成22年12月23日～平成23年12月22日	0
第7計算期間	平成23年12月23日～平成24年12月25日	0
第8計算期間	平成24年12月26日～平成25年12月24日	0
第9計算期間	平成25年12月25日～平成26年12月22日	0
第10計算期間	平成26年12月23日～平成27年12月22日	0
第11計算期間	平成27年12月23日～平成28年12月22日	0
第12計算期間	平成28年12月23日～平成29年12月22日	0

【収益率の推移】

期	計算期間	収益率（％）
第3計算期間	平成19年12月26日～平成20年12月22日	50.20
第4計算期間	平成20年12月23日～平成21年12月22日	18.06
第5計算期間	平成21年12月23日～平成22年12月22日	0.79
第6計算期間	平成22年12月23日～平成23年12月22日	0.47
第7計算期間	平成23年12月23日～平成24年12月25日	22.17
第8計算期間	平成24年12月26日～平成25年12月24日	94.21
第9計算期間	平成25年12月25日～平成26年12月22日	12.06
第10計算期間	平成26年12月23日～平成27年12月22日	6.09
第11計算期間	平成27年12月23日～平成28年12月22日	15.50
第12計算期間	平成28年12月23日～平成29年12月22日	89.38
第13計算期(中間期)	平成29年12月23日～平成30年 6月22日	15.19

(注)各計算期間の収益率は、計算期間末の基準価額（分配落ち）に当該計算期間の分配金を加算し、当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落ち。以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じた数を記載しております。

（４）【設定及び解約の実績】

期	計算期間	設定数量 (口)	解約数量 (口)	発行済み数量 (口)
第3計算期間	平成19年12月26日～平成20年12月22日	52,389	419,986	2,645,710
第4計算期間	平成20年12月23日～平成21年12月22日	6,863	194,367	2,458,206
第5計算期間	平成21年12月23日～平成22年12月22日	9,213	369,657	2,097,762
第6計算期間	平成22年12月23日～平成23年12月22日	12,438	324,467	1,785,733
第7計算期間	平成23年12月23日～平成24年12月25日	4,214	449,613	1,340,334
第8計算期間	平成24年12月26日～平成25年12月24日	788,595	903,334	1,225,595
第9計算期間	平成25年12月25日～平成26年12月22日	175,118	524,686	876,027
第10計算期間	平成26年12月23日～平成27年12月22日	125,140	319,191	681,976
第11計算期間	平成27年12月23日～平成28年12月22日	37,336	175,323	543,989
第12計算期間	平成28年12月23日～平成29年12月22日	709,575	598,467	655,097
第13計算期間(中間)	平成29年12月23日～平成30年 6月22日	2,172,491	1,445,580	1,382,008

(注)本邦外における設定及び解約の実績はありません。

（参考）

小型成長株・マザーファンド

投資状況

(平成30年 7月31日現在)

資産の種類	国名	時価合計 (円)	投資比率 (%)
株式	日本	24,620,856,300	97.09
現金・預金・その他の資産(負債控除後)	-	736,878,740	2.91
合計(純資産総額)		25,357,735,040	100.00

(注)投資比率とは、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

投資資産

投資有価証券の主要銘柄

(平成30年 7月31日現在)

国/ 地域	種 類	銘 柄 名	業 種	数 量	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
日本	株式	ビジョン	情報・通 信業	215,000	2,880.98	619,410,700	4,195.00	901,925,000	3.56
日本	株式	ラクス	情報・通 信業	502,600	1,376.16	691,658,016	1,786.00	897,643,600	3.54
日本	株式	メニコン	精密機器	310,000	3,112.06	964,738,600	2,876.00	891,560,000	3.52
日本	株式	ジャパンエレベーターサー ビスホールディングス	サービ ス業	319,000	2,224.35	709,567,650	2,788.00	889,372,000	3.51
日本	株式	ユー・エム・シー・エレクト ロニクス	電気機器	331,000	3,039.62	1,006,114,220	2,590.00	857,290,000	3.38
日本	株式	イトクロ	サービ ス業	136,500	6,078.01	829,648,365	6,250.00	853,125,000	3.36
日本	株式	S H I F T	情報・通 信業	177,000	3,460.89	612,577,530	4,805.00	850,485,000	3.35
日本	株式	インソース	サービ ス業	340,000	1,836.40	624,376,000	2,467.00	838,780,000	3.31
日本	株式	M S - J a p a n	サービ ス業	122,700	6,377.49	782,518,023	6,800.00	834,360,000	3.29
日本	株式	H a m e e	小売業	571,000	1,904.76	1,087,617,960	1,442.00	823,382,000	3.25
日本	株式	オープンドア	情報・通 信業	383,000	2,470.33	946,136,390	2,140.00	819,620,000	3.23
日本	株式	綿半ホールディングス	小売業	266,500	3,663.22	976,248,130	3,060.00	815,490,000	3.22
日本	株式	ヤマシンフィルタ	機械	670,000	1,412.95	946,676,500	1,148.00	769,160,000	3.03
日本	株式	ソウルダアウト	サービ ス業	169,200	2,902.38	491,082,696	4,450.00	752,940,000	2.97
日本	株式	ティーケーピー	不動産業	183,000	2,736.46	500,772,180	3,980.00	728,340,000	2.87
日本	株式	ウィルグループ	サービ ス業	640,000	1,768.36	1,131,750,400	1,132.00	724,480,000	2.86
日本	株式	カナミックネットワーク	情報・通 信業	350,000	2,002.13	700,746,505	2,069.00	724,150,000	2.86
日本	株式	スノーピーク	その他製 品	480,000	1,456.19	698,971,200	1,502.00	720,960,000	2.84
日本	株式	アトラエ	サービ ス業	290,000	3,470.96	1,006,578,676	2,335.00	677,150,000	2.67
日本	株式	マクロミル	情報・通 信業	238,000	3,077.29	732,395,495	2,630.00	625,940,000	2.47
日本	株式	A B ホテル	サービ ス業	280,000	2,526.90	707,533,846	2,004.00	561,120,000	2.21
日本	株式	M & A キャピタルパート ナーズ	サービ ス業	77,400	7,992.11	618,589,314	7,050.00	545,670,000	2.15
日本	株式	K e e P e r 技研	サービ ス業	440,900	1,386.70	611,396,030	1,205.00	531,284,500	2.10

日本	株式	キャピタル・アセット・プランニング	情報・通信業	71,400	3,759.00	268,392,675	7,390.00	527,646,000	2.08
日本	株式	プレミアグループ	その他金融業	145,700	2,764.03	402,719,171	3,580.00	521,606,000	2.06
日本	株式	デジタル・インフォメーション・テクノロジー	情報・通信業	436,000	1,201.29	523,764,620	1,122.00	489,192,000	1.93
日本	株式	ミズホメディー	医薬品	210,000	2,293.71	481,679,100	2,317.00	486,570,000	1.92
日本	株式	スタジオアタオ	小売業	199,200	2,918.52	581,369,184	2,435.00	485,052,000	1.91
日本	株式	シンクロ・フード	情報・通信業	489,000	948.81	463,970,601	898.00	439,122,000	1.73
日本	株式	イントラスト	その他金融業	719,900	833.63	600,130,237	608.00	437,699,200	1.73

(注)投資比率とは、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

種類別・業種別構成比率

(平成30年 7月31日現在)

種類	業種	投資比率(%)
株式	建設業	0.26
	化学	1.52
	医薬品	1.92
	機械	3.03
	電気機器	3.65
	精密機器	3.52
	その他製品	2.84
	情報・通信業	28.22
	卸売業	0.92
	小売業	10.51
	その他金融業	3.78
	不動産業	3.30
	サービス業	33.63
合計		97.09

(注)投資比率とは、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

(参考情報)

運用実績

基準価額・純資産の推移

(基準日:2018年7月31日)

(2008年7月31日～2018年7月31日)



※基準価額及び税引前分配金再投資基準価額は運用管理費用(信託報酬)控除後の1口当たりの値です。

基準価額(1口当たり)	17,197円
純資産総額	217.18億円

分配の推移(1口当たり、税引前)

決算期	金額
第8期(2013年12月24日)	0円
第9期(2014年12月22日)	0円
第10期(2015年12月22日)	0円
第11期(2016年12月22日)	0円
第12期(2017年12月22日)	0円
設定来累計	0円

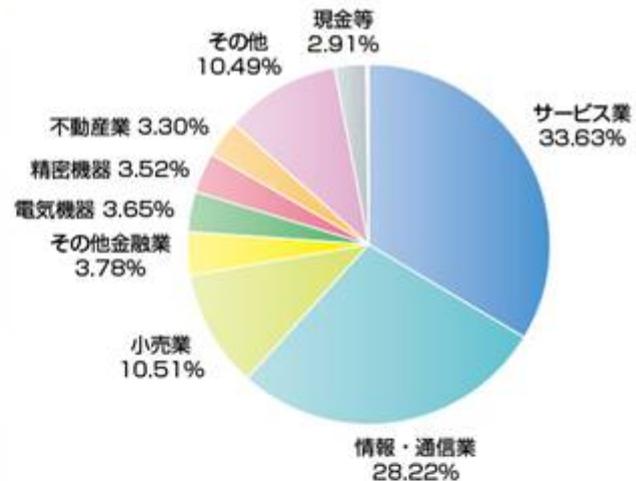
主要な資産の状況(マザーファンド)

※比率はマザーファンドの純資産総額に対する比率を表示しています。

《組入上位10銘柄》

銘柄名	業種	組入比率
1 ビジョン	情報・通信業	3.56%
2 ラクス	情報・通信業	3.54%
3 メニコン	精密機器	3.52%
4 ジャパンエバーターサービスホールディングス	サービス業	3.51%
5 ユー・エム・シー・エレクトロニクス	電気機器	3.38%
6 イトクロ	サービス業	3.36%
7 SHIFT	情報・通信業	3.35%
8 インソース	サービス業	3.31%
9 MS-Japan	サービス業	3.29%
10 Hamee	小売業	3.25%

《業種別構成比率》



※比率は小数点第3位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

《構成比率》

マザーファンド	
国内株式	97.09%
現金等	2.91%
合計	100.00%

年間収益率の推移(暦年ベース)



※ファンドの年間収益率は決算時の分配金を非課税で再投資したものと計算しています。
※2018年は7月末までの騰落率です。

最新の運用実績は、委託会社のホームページまたは販売会社でご確認いただけます。
※ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果をお約束するものではありません。

第2【管理及び運営】

3【資産管理等の概要】

(5)【その他】

<訂正前>

- () 受益権総口数の減少に伴う繰上償還
(略)
公告を行う場合は、日刊工業新聞に掲載します。
- () その他の事由による信託の終了
(略)
公告を行う場合は、日刊工業新聞に掲載します。
- () 約款変更
(略)
公告を行う場合は、日刊工業新聞に掲載します。

<訂正後>

- () 受益権総口数の減少に伴う繰上償還
(略)
公告を行う場合は、日刊工業新聞に掲載します。
ただし、2019年3月1日以降は、以下の通り変更される予定です。
原則として、電子公告の方法により行い、委託会社のホームページ
(<http://www.sbiam.co.jp/>)に掲載します。
- () その他の事由による信託の終了
(略)
公告を行う場合は、日刊工業新聞に掲載します。
ただし、2019年3月1日以降は、以下の通り変更される予定です。
原則として、電子公告の方法により行い、委託会社のホームページ
(<http://www.sbiam.co.jp/>)に掲載します。
- () 約款変更
(略)
公告を行う場合は、日刊工業新聞に掲載します。
ただし、2019年3月1日以降は、以下の通り変更される予定です。
原則として、電子公告の方法により行い、委託会社のホームページ
(<http://www.sbiam.co.jp/>)に掲載します。

第3【ファンドの経理状況】

以下の内容を追加します。

- 1) 本ファンドの中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）並びに、同規則第38条の3及び同規則第57条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、中間財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

- 2) 本ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第13期中間計算期間（平成29年12月23日から平成30年6月22日まで）の中間財務諸表について、太陽有限責任監査法人による中間監査を受けております。

なお、従来から当社が監査証明を受けている優成監査法人は、平成30年7月2日に太陽有限責任監査法人と合併し、太陽有限責任監査法人に名称を変更しております。

中間財務諸表

【SBI小型成長株ファンド ジェイクール（愛称：jcool）】

(1) 【中間貸借対照表】

(単位：円)

		第13期中間計算期間 (平成30年 6月22日現在)
資産の部		
流動資産		
金銭信託		847,044
コール・ローン		211,020,594
親投資信託受益証券		25,247,704,055
流動資産合計		25,459,571,693
資産合計		25,459,571,693
負債の部		
流動負債		
未払解約金		123,943,906
未払受託者報酬		1,697,639
未払委託者報酬		39,530,760
未払利息		578
その他未払費用		216,000
流動負債合計		165,388,883
負債合計		165,388,883
純資産の部		
元本等		
元本		13,820,080,000
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金（ ）		11,474,102,810
（分配準備積立金）		1,027,145,882
元本等合計		25,294,182,810
純資産合計		25,294,182,810
負債純資産合計		25,459,571,693

（２）【中間損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第13期中間計算期間 自 平成29年12月23日 至 平成30年 6月22日
営業収益	
受取利息	23
有価証券売買等損益	1,517,146,298
営業収益合計	1,517,146,321
営業費用	
支払利息	336,089
受託者報酬	9,829,302
委託者報酬	228,882,304
その他費用	221,757
営業費用合計	239,269,452
営業利益又は営業損失（ ）	1,277,876,869
経常利益又は経常損失（ ）	1,277,876,869
中間純利益又は中間純損失（ ）	1,277,876,869
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額（ ）	452,840,033
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	3,857,890,030
剰余金増加額又は欠損金減少額	17,392,563,473
中間一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	-
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	17,392,563,473
剰余金減少額又は欠損金増加額	10,601,387,529
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	10,601,387,529
分配金	-
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	11,474,102,810

(3) 【中間注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、計算期間末日の基準価額で評価しております。
-----------------	--

(中間貸借対照表に関する注記)

期別		第13期中間計算期間 平成30年 6月22日現在
1.	計算期間の末日における受益権の総数	1,382,008口
2.	1口当たり純資産額	18,302円

(中間損益及び剰余金計算書に関する注記)

第12期中間計算期間（自 平成28年12月23日 至 平成29年 6月22日）

該当事項はありません。

第13期中間計算期間（自 平成29年12月23日 至 平成30年 6月22日）

該当事項はありません。

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

項目	第13期中間計算期間 平成30年 6月22日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	中間貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、中間貸借対照表計上額と時価との差額はありません。 親投資信託受益証券 (重要な会計方針に係る事項に関する注記)に記載しております。 上記以外の金融商品 これらの商品は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。
2. 時価の算定方法	
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	

(元本の移動)

区分	第13期中間計算期間 自 平成29年12月23日 至 平成30年 6月22日
投資信託財産に係る元本の状況	
期首元本額	6,550,970,000円
期中追加設定元本額	21,724,910,000円
期中一部解約元本額	14,455,800,000円

< 参考情報 >

本報告書の開示対象であるファンド（SBI小型成長株ファンド ジェイクール（愛称：jcool））は、「小型成長株・マザーファンド」の受益証券を主要な投資対象としており、中間貸借対照表の資産の部に計上されている親投資信託受益証券は、すべて同マザーファンドの受益証券であります。同マザーファンドの平成29年6月22日現在（以下「計算日」という。）の状況は次に示すとおりであります。それらは監査意見の対象外であります。

小型成長株・マザーファンド

貸借対照表

（単位：円）

平成30年 6月22日現在	
資産の部	
流動資産	
コール・ローン	634,252,654
株式	28,313,856,000
未収入金	377,507,376
未収配当金	56,455,250
流動資産合計	29,382,071,280
資産合計	29,382,071,280
負債の部	
流動負債	
未払金	4,800,000
未払利息	1,737
流動負債合計	4,801,737
負債合計	4,801,737
純資産の部	
元本等	
元本	13,018,356,224
剰余金	
剰余金又は欠損金（ ）	16,358,913,319
元本等合計	29,377,269,543
純資産合計	29,377,269,543
負債純資産合計	29,382,071,280

注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	株式 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、金融商品取引所における計算日の最終相場によっております。
2. 収益及び費用の計上基準	受取配当金 株式の配当落ち日において、その金額が確定している場合には当該金額を計上し、未だ確定していない場合には予想配当金額を計上し、入金金額との差額については入金時に計上しております。

(貸借対照表に関する注記)

		平成30年 6月22日現在
1.	計算期間の末日における受益権の総数	13,018,356,224口
2.	1口当たり純資産額 (10,000口当たり純資産額)	2.2566円 (22,566円)

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

項目	平成30年 6月22日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	株式 (重要な会計方針に係る事項に関する注記)に記載しております。 上記以外の金融商品 これらの商品は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

(元本の移動)

区分	自 平成29年12月23日 至 平成30年 6月22日
投資信託財産に係る元本の状況	
期首	平成29年12月23日
期首元本額	7,398,487,718円

期末元本額	13,018,356,224円
期中追加設定元本額	15,297,266,463円
期中一部解約元本額	9,677,397,957円
元本の内訳	
SBI小型成長株ファンド ジェイクール(愛称:jcool)	11,188,382,547円
小型成長株ファンド ジェイクール(適格機関投資家専用)	14,005,225円
SBI日本小型成長株選抜ファンド(愛称:センバツ)	1,815,968,452円

(注) は当該親信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

2【ファンドの現況】

以下の内容に訂正・更新します。

【純資産額計算書】

	平成30年7月31日現在
資産総額	21,892,059,636円
負債総額	174,031,927円
純資産総額（ - ）	21,718,027,709円
発行済口数	1,262,886口
1口当たり純資産額（ / ）	17,197円

参考情報

<小型成長株・マザーファンド>

純資産額計算書

	平成30年7月31日現在
資産総額	25,366,552,257円
負債総額	8,817,217円
純資産総額（ - ）	25,357,735,040円
発行済口数	11,940,598,168口
1口当たり純資産額（ / ）	2.1237円
1万口当たり純資産額	21,237円

第三部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

<訂正前>

資本金の額

() 資本金の額(平成30年1月末日現在)

(略)

<訂正後>

資本金の額

() 資本金の額(平成30年7月末日現在)

(略)

2【事業の内容及び営業の概況】

<訂正前>

(略)

(平成30年1月末日現在)

ファンドの種類	本数	純資産総額(百万円)
追加型株式投資信託	49	354,555

<訂正後>

(略)

(平成30年7月末日現在)

ファンドの種類	本数	純資産総額(百万円)
追加型株式投資信託	52	297,935
単位型株式投資信託	1	498

3 【委託会社等の経理状況】

以下の内容に訂正・更新します。

(1) 財務諸表の作成方法について

委託会社であるSBIアセットマネジメント株式会社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下、「財務諸表等規則」という。)、ならびに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年8月6日内閣府令第52号)により作成しております。

なお、財務諸表の金額については、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

(2) 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の財務諸表について、優成監査法人による監査を受けております。

(1) 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,190,923	656,253
前払費用	18,512	36,884
未収委託者報酬	233,608	502,468
未収運用受託報酬	8,533	-
繰延税金資産	3,150	9,353
その他	11,264	15,614
流動資産合計	1,465,992	1,220,574
固定資産		
有形固定資産		
建物	53	1,121
器具備品	1,857	1,446
有形固定資産合計	1,910	2,567
無形固定資産		
電話加入権	67	67
ソフトウェア	2,536	5,708
商標権	1,509	1,330
無形固定資産合計	4,113	7,105
投資その他の資産		
投資有価証券	-	913,644
関係会社株式	127,776	127,776
繰延税金資産	-	26,595
長期差入保証金	19,856	19,856
その他	-	3,360
投資その他の資産合計	147,633	1,091,233
固定資産合計	153,657	1,100,906
資産合計	1,619,650	2,321,480

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
負債の部		
流動負債		
預り金	477	4,011
未払金	222,657	455,275
未払手数料	198,172	419,007
未払法人税等	48,193	143,048
未払消費税等	8,854	33,817
流動負債合計	280,183	636,152
負債合計	280,183	636,152
純資産の部		
株主資本		
資本金	400,200	400,200
利益剰余金		
利益準備金	30,012	30,012
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	909,254	1,315,376
利益剰余金合計	939,266	1,345,388
株主資本合計	1,339,466	1,745,588
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	-	60,260
評価・換算差額等合計	-	60,260
純資産合計	1,339,466	1,685,327
負債純資産合計	1,619,650	2,321,480

(2) 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
営業収益		
委託者報酬	1,661,953	3,207,709
運用受託報酬	45,489	16,380
投資顧問料	4,011	-
その他営業収益	-	4,500
営業収益合計	1,711,454	3,228,590
営業費用		
支払手数料	1,014,112	2,173,300
広告宣伝費	686	48,444
調査費	25,912	27,077
調査費	25,912	27,077
委託計算費	96,123	121,126
営業雑経費	13,344	23,392
通信費	827	1,208
印刷費	9,975	19,323
協会費	2,171	2,049
諸会費	49	183
その他営業雑経費	319	628
営業費用合計	1,150,178	2,393,341
一般管理費		
給料	134,722	156,504
役員報酬	27,378	44,607
給料・手当	107,343	111,896
交際費	75	169
旅費交通費	3,787	7,996
福利厚生費	19,124	20,444
租税公課	7,729	11,602
不動産賃借料	17,574	18,383
消耗品費	1,751	1,772
事務委託費	11,556	10,188
退職給付費用	4,300	4,578
固定資産減価償却費	1,973	2,422
諸経費	11,737	13,285
一般管理費合計	214,332	247,348
営業利益	346,943	587,900
営業外収益		
受取利息	55	19
為替差益	-	0
雑収入	923	602
営業外収益合計	978	622
営業外費用		
支払利息	13	-
為替差損	0	-
雑損失	-	486
営業外費用合計	13	486
経常利益	347,908	588,035
税引前当期純利益	347,908	588,035
法人税、住民税及び事業税	105,400	188,117
法人税等調整額	2,371	6,202
法人税等合計	107,771	181,914
当期純利益	240,136	406,121

(3) 【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本				株主資本 合計	評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	利益準備金	利益剰余金			その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
			その他 利益剰余金 繰越利益 剰余金	利益 剰余金 合計				
当期首残高	400,200	30,012	669,117	699,129	1,099,329	-	-	1,099,329
当期変動額								
当期純利益			240,136	240,136	240,136			240,136
当期変動額合計	-	-	240,136	240,136	240,136	-	-	240,136
当期末残高	400,200	30,012	909,254	939,266	1,339,466	-	-	1,339,466

当事業年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本				株主資本 合計	評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	利益準備金	利益剰余金			その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
			その他 利益剰余金 繰越利益 剰余金	利益 剰余金 合計				
当期首残高	400,200	30,012	909,254	939,266	1,339,466	-	-	1,339,466
当期変動額								
当期純利益			406,121	406,121	406,121			406,121
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）						60,260	60,260	60,260
当期変動額合計	-	-	406,121	406,121	406,121	60,260	60,260	345,861
当期末残高	400,200	30,012	1,315,376	1,345,388	1,745,588	60,260	60,260	1,685,327

重要な会計方針

1．有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式

移動平均法に基づく原価法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

2．固定資産の減価償却の方法

有形固定資産

定額法を採用しております。なお主な耐用年数は、建物が10年、器具備品が3-15年であります。

無形固定資産

定額法を採用しております。自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

3．その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税及び地方消費税の会計処理

税抜方式によっております。

注記事項

(貸借対照表関係)

前事業年度 (平成29年3月31日)		当事業年度 (平成30年3月31日)	
*	有形固定資産の減価償却累計額は以下のとおりであります。	*	有形固定資産の減価償却累計額は以下のとおりであります。
	建物 0千円		建物 110千円
	器具備品 3,519千円		器具備品 4,024千円
	合計 3,520千円		合計 4,135千円

(損益計算書関係)

該当事項はありません。

（株主資本等変動計算書関係）

前事業年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

1．発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首株式数	増加	減少	当事業年度末株式数
普通株式(株)	36,600	-	-	36,600

2．自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3．新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4．配当に関する事項

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

1．発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首株式数	増加	減少	当事業年度末株式数
普通株式(株)	36,600	-	-	36,600

2．自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3．新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4．配当に関する事項

該当事項はありません。

（金融商品関係）

前事業年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、一時的な余剰資金の運用については短期的な預金等に限定しております。なお、事業及び設備投資に必要な自己資金を有しているため、外部からの資金調達の計画はありません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である未収委託者報酬は、受託銀行にて分別管理されている信託財産より生じる信託報酬債権であり、その信用リスクは軽微であります。未収運用受託報酬は、顧客の信用リスクに晒されております。営業債務である未払手数料等は、1年以内の支払期日であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

営業債権については経理規程に従い、取引先ごとに期日及び残高を管理しております。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券については、定期的に時価や発行体の財務状況等の把握を行っております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成29年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（注2）を参照ください。）。

（単位：千円）

	貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 預金	1,190,923	1,190,923	-
(2) 未収委託者報酬	233,608	233,608	-
(3) 未収運用受託報酬	8,533	8,533	-
資産計	1,433,065	1,433,065	-
未払金	222,657	222,657	-
負債計	222,657	222,657	-

（注1）金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

(1)預金 (2)未収委託者報酬 (3)未収運用受託報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

負債

未払金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

（注2）時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	貸借対照表計上額
(1) 子会社株式	127,776
(2) 長期差入保証金	19,856

(1) 子会社株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、時価開示の対象とはしておりません。

(2) 長期差入保証金については、期限の定めが無いため、将来キャッシュ・フローの算定が困難であることから、時価開示の対象とはしておりません。

（注3）金銭債権の決算日後の償還予定額

(単位：千円)

	1年以内
預金	1,190,923
未収委託者報酬	233,608
未収運用受託報酬	8,533
合計	1,433,065

当事業年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、自社が運用する投資信託の商品性維持を目的として、当該投資信託を投資有価証券として保有しております。その他、一時的な余剰資金の運用については短期的な預金等に限定しております。なお、事業及び設備投資に必要な自己資金を有しているため、外部からの資金調達の計画はありません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である未収委託者報酬は、受託銀行にて分別管理されている信託財産より生じる信託報酬債権であり、その信用リスクは軽微であります。投資有価証券はファンドの自己設定に関連する投資信託であり、基準価額の変動リスクに晒されております。営業債務である未払手数料等は、1年以内の支払期日であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

営業債権については経理規程に従い、取引先ごとに期日及び残高を管理しております。

市場リスク（価格、為替や金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券については、定期的に基準価額を把握することにより管理しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成30年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（注2）を参照ください。）。

（単位：千円）

	貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 預金	656,253	656,253	-
(2) 未収委託者報酬	502,468	502,468	-
(3) 投資有価証券 その他有価証券	913,644	913,644	-
資産計	2,072,366	2,072,366	-
未払金	455,275	455,275	-
負債計	455,275	455,275	-

（注1）金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

(1)預金 (2)未収委託者報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3)投資有価証券

その他有価証券（投資信託）は基準価額によっております。

負債

未払金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

（注2）時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

（単位：千円）

区分	貸借対照表計上額
(1) 子会社株式	127,776
(2) 長期差入保証金	19,856

(1) 子会社株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、時価開示の対象とはしておりません。

(2) 長期差入保証金については、期限の定めが無いため、将来キャッシュ・フローの算定が困難であることから、時価開示の対象とはしておりません。

（注3）金銭債権の決算日後の償還予定額

（単位：千円）

	1年以内
預金	656,253
未収委託者報酬	502,468
合計	1,158,722

(有価証券関係)

前事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

子会社株式(貸借対照表計上額 関係会社株式 127,776千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1. 子会社株式

子会社株式(貸借対照表計上額 関係会社株式 127,776千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

2. その他有価証券

(単位:千円)

区分		貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1)株式	-	-	-
	(2)債券	-	-	-
	(3)その他	-	-	-
	小計	-	-	-
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1)株式	-	-	-
	(2)債券	-	-	-
	(3)その他	913,644	1,000,500	86,855
	小計	913,644	1,000,500	86,855
合計		913,644	1,000,500	86,855

3. 売却したその他有価証券

(単位:千円)

区分	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
(1)株式	-	-	-
(2)債券	-	-	-
(3)その他	24,133	-	486
合計	24,133	-	486

(デリバティブ取引関係)

前事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

当社は、デリバティブ取引を全く行っておりませんので、該当事項はありません。

当事業年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

当社は、デリバティブ取引を全く行っておりませんので、該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定拠出型年金制度を採用しております。

2. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、前事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)4,300千円、当事業年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)4,578千円であります。

(税効果会計関係)

前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)																																						
<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">電話加入権</td> <td style="text-align: right;">438千円</td> </tr> <tr> <td>関係会社株式評価損</td> <td style="text-align: right;">19,114</td> </tr> <tr> <td>未払事業税</td> <td style="text-align: right;">364</td> </tr> <tr> <td>その他未払税金</td> <td style="text-align: right;">2,409</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">376</td> </tr> <tr> <td colspan="2"><hr/></td> </tr> <tr> <td>繰延税金資産小計</td> <td style="text-align: right;">22,703</td> </tr> <tr> <td>評価性引当額</td> <td style="text-align: right;">19,552</td> </tr> <tr> <td>繰延税金資産合計</td> <td style="text-align: right;">3,150</td> </tr> </table>	電話加入権	438千円	関係会社株式評価損	19,114	未払事業税	364	その他未払税金	2,409	その他	376	<hr/>		繰延税金資産小計	22,703	評価性引当額	19,552	繰延税金資産合計	3,150	<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">電話加入権</td> <td style="text-align: right;">438千円</td> </tr> <tr> <td>関係会社株式評価損</td> <td style="text-align: right;">19,114</td> </tr> <tr> <td>未払事業税</td> <td style="text-align: right;">6,752</td> </tr> <tr> <td>その他未払税金</td> <td style="text-align: right;">2,301</td> </tr> <tr> <td>その他有価証券評価差額金</td> <td style="text-align: right;">26,595</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">299</td> </tr> <tr> <td colspan="2"><hr/></td> </tr> <tr> <td>繰延税金資産小計</td> <td style="text-align: right;">55,501</td> </tr> <tr> <td>評価性引当額</td> <td style="text-align: right;">19,552</td> </tr> <tr> <td>繰延税金資産合計</td> <td style="text-align: right;">35,948</td> </tr> </table>	電話加入権	438千円	関係会社株式評価損	19,114	未払事業税	6,752	その他未払税金	2,301	その他有価証券評価差額金	26,595	その他	299	<hr/>		繰延税金資産小計	55,501	評価性引当額	19,552	繰延税金資産合計	35,948
電話加入権	438千円																																						
関係会社株式評価損	19,114																																						
未払事業税	364																																						
その他未払税金	2,409																																						
その他	376																																						
<hr/>																																							
繰延税金資産小計	22,703																																						
評価性引当額	19,552																																						
繰延税金資産合計	3,150																																						
電話加入権	438千円																																						
関係会社株式評価損	19,114																																						
未払事業税	6,752																																						
その他未払税金	2,301																																						
その他有価証券評価差額金	26,595																																						
その他	299																																						
<hr/>																																							
繰延税金資産小計	55,501																																						
評価性引当額	19,552																																						
繰延税金資産合計	35,948																																						
<p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異原因となった主要な項目別の内訳</p> <p>当事業年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。</p>	<p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異原因となった主要な項目別の内訳</p> <p style="text-align: center;">同左</p>																																						

（セグメント情報）

前事業年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（セグメント情報）

当社の事業は、投資運用業及び投資助言葉の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

（関連情報）

1．製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1)売上高

本邦の外部顧客への売上高に区分した金額が損益計算書の売上高の90%を超えるため、地域ごとの売上高の記載を省略しております。

(2)有形固定資産

本邦以外に所在している固定資産がないため、該当事項はありません。

3．主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

顧客の名称	営業収益
グローバル・リート・トリプル・プレミアム・ファンド（毎月分配型）	273,228
SBI/アリアンツ日本株集中投資戦略ファンド（FOFs用）（適格機関投資家専用）	183,987

（報告セグメントごとの減損損失に関する情報）

該当事項はありません。

（報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報）

該当事項はありません。

（報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報）

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(セグメント情報)

当社の事業は、投資運用業及び投資助言葉の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(関連情報)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高に区分した金額が損益計算書の売上高の90%を超えるため、地域ごとの売上高の記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称	営業収益
グローバル・リート・トリプル・プレミアム・ファンド(毎月分配型)	489,935
SBI日本小型成長株選抜ファンド	472,434
SBI中小型割安成長株ファンドジェイリバイブ(年2回決算型)	347,593
SBI中小型割安成長株ファンドジェイリバイブ	323,110

(報告セグメントごとの減損損失に関する情報)

該当事項はありません。

(報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報)

該当事項はありません。

(報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報)

該当事項はありません。

(関連当事者情報)

前事業年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

1. 関連当事者との取引

財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア) 財務諸表提出会社の親会社及び法人主要株主等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者との関係	取引の 内容	取引 金額 (千円)	科目	期末 残高 (千円)
親会社	SBIホールディングス株式会社	東京都港区	81,681	グループの 統括・運営	(被所有) 間接 49.5%	不動産設備利用 役員の兼任	事務所敷 金の差入	-	長期差 入保証 金	19,802

- (注) 1. 取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
2. 不動産設備利用に係る保証条件は、同社に適用される保証条件と同一の条件となっております。

(イ) 財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者との関係	取引の 内容	取引 金額 (千円)	科目	期末 残高 (千円)
同一の 親会社 を持つ 会社	株式会社SBI証券	東京都港区	48,323	証券業	-	販売委託	販売委託 支払手数料	397,985	未払金	73,724

- (注) 1. 取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
2. 販売委託の条件は、市場価格を勘案し、取引先との協議によって決定しております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

親会社情報

モーニングスター株式会社（東京証券取引所 ジャスダック市場）

SBIグローバルアセットマネジメント株式会社（非上場）

SBIホールディングス株式会社（東京証券取引所に上場）

当事業年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

1. 関連当事者との取引

財務諸表提出会社と関連当事者との取引

財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者との関係	取引の 内容	取引 金額 (千円)	科目	期末 残高 (千円)
同一の 親会社 を持つ 会社	株式会社SBI証券	東京都港区	48,323	証券業	-	販売委託・販促	販売委託 支払手数料	862,570	未払金	135,442
							広告宣伝 費	1,495		

(注) 1. 取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 販売委託の条件は、市場価格を勘案し、取引先との協議によって決定しております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

親会社情報

モーニングスター株式会社（東京証券取引所 ジャスダック市場）

SBIグローバルアセットマネジメント株式会社（非上場）

SBIホールディングス株式会社（東京証券取引所に上場）

(1株当たり情報)

	前事業年度 自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日	当事業年度 自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日
1株当たり純資産額	36,597円44銭	46,047円21銭
1株当たり当期純利益	6,561円11銭	11,096円21銭
	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(注) 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日	当事業年度 自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日
当期純利益(千円)	240,136	406,121
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	240,136	406,121
期中平均株式数(株)	36,600	36,600

(重要な後発事象)

前事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

5【その他】

<訂正前>

定款の変更

委託会社は、平成25年1月11日付で株券を不発行とする旨の定款変更を行いました。

(略)

<訂正後>

定款の変更

2018年6月20日付で、以下の変更を行いました。イ．公告を電子公告の方法により行う（ただし、電子公告による公告ができない事故その他のやむを得ない事由が生じた場合には、日刊工業新聞に掲載して行う）。ロ．上記イ．の変更は2019年3月1日から効力が発生する。

(略)

第2【その他の関係法人の概況】

以下の内容に訂正・更新します。

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

	名 称	資本金の額 (平成30年3月末日現在)	事業の内容
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社	324,279百万円	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律(兼営法)に基づき信託業務を営んでいます。
再信託 受託会社	日本マスタートラスト信託銀行株式会社	10,000百万円	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律(兼営法)に基づき信託業務を営んでいます。
販売会社	株式会社SBI証券	48,323百万円	「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
	楽天証券株式会社	7,495百万円	
	エイチ・エス証券株式会社	3,000百万円	
	マネックス証券株式会社	12,200百万円	
	高木証券株式会社	11,069百万円	
	立花証券株式会社	6,695百万円	
	カブドットコム証券株式会社	7,196百万円	
	日産証券株式会社	1,500百万円	
	東海東京証券株式会社	6,000百万円	
投資顧問 会社	エンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社	10百万円	「金融商品取引法」に定める金融商品取引業として投資助言・代理業を営んでいます。

第3【その他】

<訂正前>

(略)

(2) 目論見書の表紙、表紙裏または裏表紙に、以下を記載することがあります。

委託会社の金融商品取引業者登録番号及び設立年月日

ファンドの基本的性格など

委託会社及びファンドのロゴ・マークや図案など

委託会社のホームページや携帯電話サイトのご案内など

目論見書の使用開始日

(略)

<訂正後>

(略)

(2) 目論見書の表紙、表紙裏または裏表紙に、以下を記載することがあります。

委託会社の金融商品取引業者登録番号及び設立年月日

ファンドの基本的性格など

委託会社及びファンドのロゴ・マークや図案など

委託会社のホームページや携帯電話サイトのご案内など

目論見書の使用開始日

「J Series Fund (ジェイ・シリーズ・ファンド)」のロゴ・マークや図案など

(略)

独立監査人の監査報告書

平成30年6月13日

SBIアセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

優成監査法人

指定社員 業務執行社員	公認会計士	本間 洋一
指定社員 業務執行社員	公認会計士	石倉 毅典

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているSBIアセットマネジメント株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第32期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査に係る監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、SBIアセットマネジメント株式会社の平成30年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
 2. XBRLデータは監査の対象に含まれておりません。

独立監査人の中間監査報告書

平成30年8月10日

SBIアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 本 間 洋 一指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 石 倉 毅 典

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているSBI小型成長株ファンド ジェイクール（愛称：jcool）の平成29年12月23日から平成30年6月22日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、SBI小型成長株ファンド ジェイクール（愛称：jcool）の平成30年6月22日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間会計期間（平成29年12月23日から平成30年6月22日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

利害関係

SBIアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれておりません。

[次へ](#)